令和7年度　飯塚市事務事業評価シート

令和　8　年　6　月　23　日　作成

事務事業名	花いっぱい推進事業	事務事業No.	663 - 1

1．基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
都市建設部	都市計画課	計画指導係	主事補	澤田　海音	課長	米倉　修二

施策体系				
総合計画	政　策	6	都市基盤・生活基盤
	施　策	6	公園・緑地の整備
	基本事業	3	花いっぱい運動の推進
その他の計画	個別計画		－

根拠法令・要綱等	飯塚市花いっぱい推進協議会補助金交付要綱、飯塚市都市景観条例				
事業開始年度	平成20年度	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業
実施手法	一部委託	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	－

2．事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要		花を通じた各種事業の展開により明るい郷土とすることを主目的とし、併せて景観の向上や地域コミュニティの形成を図る。
対象	働きかける相手・もの	市の景観、市民、飯塚市花いっぱい推進協議会会員
手段	方法・働きかけ（活動指標）	協議会事業（花苗配布・環境美化活動・飾花活動ボランティア・公共施設の美化活動・講習会等の実施）及び活動周知
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	会員団体数（花壇数）の増加による地域の景観向上。花壇づくりを通した地域コミュニティの形成。

3．活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
SNS広報活動	件	InstagramやLINEを使った花いっぱい活動の周知活動件数	2	12	18
花苗・種子配付数	ケース	会員に配付する花苗数と種子の袋数の合計	19,647	24,118	25,090
協議会イベント活動の実施（参加）回数	回	花壇コンクール、中之島種蒔、講習会、エコスタ、イベント飾付	8	8	9

4．成果指標（決算成果説明書と連動）

					前年度実績	本年度実績	次年度見込
指標	協議会会員数	単位	達成目標値				
		団体	前年度より増加	目標値	170	170	170
説明	協議会に入会している団体数	方向性	達成目標年度	実　績	163	163	
		増加	毎年度				
指標	花壇コンクール参加団体数	単位	達成目標値				
		団体	前年度より増加	目標値	27	30	33
説明	春・秋のコンクールの参加団体総数	方向性	達成目標年度	実　績	27	30	
		増加	毎年度				
指標	中之島コスモス種蒔参加者数	単位	達成目標値				
		人	前年度より増加	目標値	40	60	65
説明	コスモスの種蒔のボランティア参加者総数	方向性	達成目標年度	実　績	56	59	
		増加	毎年度				

5．事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	－

予算科目・事業	会計	1	一般会計	款	8	土木費	項	4	都市計画費	目	4	公園費
	大	5	花いっぱい推進事業費	中	1	花いっぱい推進事業費				他	1	事業

	(R2以降)	前年度実績（千円）			本年度実績（千円）			増減理由（10%以上の場合）	次年度予算（千円）		
投入人員（当該事務事業に対して１年間に投入した人員）	正職員	0.39	人	3,177	1.11	人	9,426	前年度は正職員1名、再任用職員1名がメインで業務を行っていたが、本年度は投入人員を正職員2名としたため、その分の人件費増加。 また、物価・人件費高騰による委託料の増加。	0.70	人	5,944
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短	0.20	人	716	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級フル	0.10	人	368	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級パート	0.16	人	421	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 2級パート	0.20	人	686	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）		5,368			9,426				5,944		
事業費	直接事業費（B）	4,164			4,295				5,118		
	総事業費（A＋B）	9,532			13,721				11,062		
直接事業費のうちの主な歳出内訳	需用費	2,811			3,058				3,489		
	委託料	946			830				1,176		
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）	0			0				0		
	国・県支出金	0			0				0		
	市債	0			0				0		
	一般財源	9,532			13,721				11,062		
	その他（　　）										

6．事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	高い	市有地である公共空地の美観の向上が主となるため、市民や協議会の協力を得ながら、市が中心となって行う必要がある。 事業費の大部分が花苗・種子購入費などの需用費であり、委託等を行うメリットがない。
効率性評価	やや低い	花火大会開催に伴い、中の島での市の花推進事業の実施が困難になり、時期や場所の変更の検討が必要となっているが、花いっぱい推進協議会や一部市民からの強い思いから、この事業における市（事務局）の業務量が増大してきている。 SNSを活用することで、円滑かつ正確なコミュニケーション等が可能となり、出欠確認や広報が簡単に可能となった。
有効性評価	低い	県がR6より実施している花による美しいまちづくり事業で、市で実施しているグッデイとの会員割引制度が重複しているため、市として花いっぱい運動の推進を行うメリットが薄まっている。 景観の向上は成果としてわかりにくいため評価をすることは難しいが、花壇づくり講習会では、花に興味を持っている方が多くいることが分かった。

7．前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	無料配布となっている花の種子・苗の上限数を導入、また植えた位置を示す実績報告書の提出した団体のみ次年度配布するなど、配布数の最適化を継続実施。花苗については配送を行わず、会員自身に受取りさせることで配送コストの削減。
一次評価	現状維持		
	コストの方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	事業に必要な備品（散水用機材・花苗用プランター等）の新規導入及び機材更新。会員の高齢化に伴い、協議会運営の役割分担等、規約等を含め見直しが必要であると思われる。
	現状維持		

前年度改善策に対する実績　★　　※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

花苗の配布は配送ではなく受取方式を継続したが、申込の上限は設けておらず、花苗の申込数は増加している。機材の更新や新規購入は、使用状況や必要性を考慮して保留した。規約の見直しについては、協議会加入の促進や花苗の申込制限等を考慮して検討を進めている。

8．今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】SNSを活用し、役員との円滑なコミュニケーションが可能となり、市内美化運動や協議日時の調整が容易となった。
県外から講師を招き、花に興味のある方と共に飯塚市役所前花壇を整備することや、花いっぱい運動への参加促進を行い、花に興味を持つ方を増加させることができ、花いっぱい運動についても周知を行うことができた。
花壇コンクールについても昨年度より参加者が増加し、市内美化活動についてより把握ができた。

【課題】協議会会員、役員共に高齢化が進んでおり、活動規模が縮小傾向にある。会員からいただいた寄付金の使い道が、会員に伝わっていない現状であり、より広報活動を行うことで活動団体・寄付額の上昇に繋がる。
また、花苗や種子を予算の範囲内での配布を続けているが、配布したものが実際にどこまで花壇づくりに使われているかを確認できていないため、まずは各団体の花壇の位置を把握し、花苗等の活用状況を調査する必要がある。

9.今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	【理由】
拡充	種子・花苗を配布していたものの、植え付けを行った箇所や活用方法について調査を行っていなかった。 今後は受取団体へ実績報告書の提出を義務化し、把握できていなかった市内花壇の把握を行う。それらに対しアドバイス等を行うことで、花壇整備への意欲向上へ繋がり、整備された花壇数の増加に繋がる。

コスト投入の方向性	【理由】
現状維持	現状の予算の範囲内で業務の見直しを行い、花による景観の向上と会員活動のをバランスよく図っていく。

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★

コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	SNSを活用したPR活動に力を入れ、花いっぱい推進運動を広めていくことで、協議会加入の促進、花壇づくりの拡大、地域コミュニティ活動の活性化を図る。 会員花壇の場所をすべて把握できていないため、確認してGIS等で場所を記録する。各花壇の花の状況もPRを進めて、会員のモチベーションアップにもつなげる。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	活用されていない既存の花壇にイベント形式で播種を行い、地域コミュニティ活動の活性化を図る。 現在実施している「車椅子テニス大会」「まちなかイルミネーション」「雛の祭り」での花飾りつけに加え、他の市内イベントでも飾りつけを行い、花いっぱい推進協議会の広報活動を行う。

2次評価（最終評価）		
	成果の方向性 縮小	担当課において成果の充実と実施場所の拡大を図る考えが示されているが、花の配布上限の取り決めや実績報告書等による把握体制について、なお整理を要する課題が残っている。事務事業評価においても有効性は高くないと自己評価されており、整理を要する課題があることから現段階における事業の方向性は一旦縮小と評価する。ただし今後、事業の検証や見直しにより成果が得られ、必要性が認められる場合には、現状維持や拡充を否定するものではない。事業の意義・目的・範囲と補助金の役割の明確化を早期に進める必要があると考える。
	コスト投入の方向性 縮小	本事業には関連経費を含め約1,373万円の市費が投入されており、うち942万6千円は市の人件費である。要綱において当該団体の役割とされている事務を市職員が担っている状況があり、要綱の規定と実情との整合が図られていない。こうした状況においては、補助金として支出している水準が団体の担う活動量に見合ったものとなっているかについても、あわせて検証を要するものと考える。業務量と補助水準を精査したうえで現段階のコスト投入の方向性は一旦縮小と評価するが、事業の検証や見直しにより成果が得られ必要性が認められる場合には、現状維持や拡充を否定するものではない。